

令和6年度 修士論文要旨

鹿児島大学大学院人文社会科学研究科 経済社会システム専攻

中国人労働者の適応に関する社会学的研究

: シンボリック相互作用論の視点から

王 禹欢 (WANG YUHUAN)

本研究の目的は、鹿児島で働く中国人の日本社会への適応戦略にフォーカスし類型化することを通じて、日本で働く中国人の適応戦略を明らかにすることである。第1章では、日本社会が年々、出生人口の減少、地元外国人の増加、さらに地元住民と外国人との対立など、さまざまな深刻な社会問題に直面していることを指摘し、本論の問題意識が日本の地元住民と外国人の共生問題に関わるものであることを指摘した。

続く第2章では、主として日本の外国人人口の実態と外国人をめぐる制度の変遷について述べ、本論の研究背景を示した。さらに日本における外国人人口の推移に関する既存のデータと外国人在留資格制度の内実とを突き合わせ、本研究が探究すべき問題の外延の掌握を試みた。

第3章では、在日外国人定着に関する先行研究の整理を行い、その特徴と限界を指摘した。その指摘に基づいて、外国人の定着を「適応」の問題と捉え、この問題を外国人労働者を取り巻く客観的要因のみならず、主観的要因にも着目しなければならないこと、すなわち、外国人労働者という当事者の観点を直に把握する形で研究しなければならないことを強調した。この課題を追求するにあたって、研究対象として、外国人労働者、中でも、中国人労働者を研究対象とすること、研究対象に対するアプローチ方法として、シンボリック相互作用論を活用すること、中国人労働者の適応という研究課題の探究にシンボリック相互作用論を用いることの合理性について論を展開した。

それを踏まえ第4章では、20名の中国人労働者へのインタビュー録に対する質的分析を行うことを通じて、5つの人間類型の構築を試みた。第5章では、本論第4章において検討した5類型を軸にとり、20名の研究対象者を以下の4象限に配置した。すなわち、柔軟性と冷静な判断力が高く、異文化環境の課題を的確に把握し、適切な対応を取ることでスムーズな順応を試みる「順応重視型」、高い自律性と観察力を持ち、主体的な意思決定を重視する「独立行動型」、柔軟性と観察力を備え、他者との協力を構築しながら適応を試みる「共感共同型」、冷静な判断力と自律性を兼ね備え、自らの状況を慎重に分析しつつ適応を試みる「分析慎重型」である。

中国人労働者と関わる場合に、当該労働者がどのようなタイプの間人であるかを類別し、そのタイプに適合的な対応の仕方を日本人労働者が試みる。そうすることで、相互適応（行為のかみ合わせ）が促進する可能性がある。